

**製品名: MNDA ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14007**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	46kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MNDA
別名	MNDA; Myeloid cell nuclear differentiation antigen
遺伝子 ID	4332.0
SwissProt ID	P41218
免疫原	抗血清はヒト MNDA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 358-407

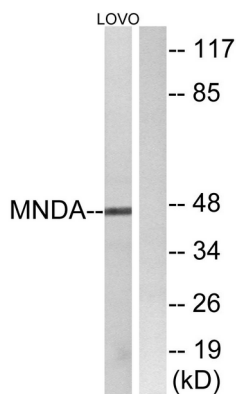
**背景**

骨髄細胞核分化抗原 (MNDA) は、顆粒球-単球系細胞の核でのみ検出されます。ヒト MNDA の 200 アミノ酸領域は、細胞特異的または組織特異的に制御されない、Ifi-201、Ifi-202、および Ifi-203 と呼ばれるインターフェロン誘導性マウス遺伝子ファミリーによ

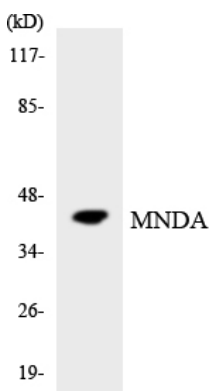
てコードされるタンパク質領域と著しく類似しています。5'非翻訳領域にインターフェロン刺激応答配列を含む 1.8 kb の MNDA mRNA は、インターフェロン  $\alpha$  に曝露されたヒト単球で有意に発現が亢進しました。MNDA は、FCER1A、APCS、CRP、および SPTA1 から 2,200 kb 以内に位置しています。MNDA の発現および/または制御パターンは IFI16 と類似しており、これらの遺伝子がインターフェロンに対する血液細胞特異的の応答に関与していることが示唆されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン:N 末端側半分 (200 アミノ酸) は、YY1 の DNA 結合を最大限に増強するのに十分であり、この配列の一部は YY1 への結合を担っています。機能:骨髄系において転写活性化因子/抑制因子として働く可能性があります。インターフェロンに対する顆粒球/単球細胞特異的の応答において役割を果たします。転写抑制タンパク質 YY1 の DNA 結合を刺激します。誘導:単球系後期細胞の発現に選択的に影響を与える  $\alpha$  インターフェロンによって強く誘導されますが、顆粒球系には影響を与えません。in vitro ではジメチルスルホキシドおよび 1,25 ジヒドロキシビタミン D3 によって誘導されます。類似性:DAPIN ドメインを 1 つ含みます。類似性:HIN-200 ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在:間期細胞核全体に均一に分布しています。クロマチンと会合する。サブユニット: YY1 および YY1 標的 DNA エレメントと三量体複合体を形成する。ヌクレオリンおよびヌクレオフォスミン/NPM/B23 に結合する。組織特異性: 骨髄系細胞において恒常的に発現する。前骨髄球期の細胞だけでなく、末梢血単球および顆粒球を含む他のすべての段階の細胞にも存在する。急性骨髄性白血病の一部症例では、骨髄芽球細胞にも発現する。、

## 研究分野

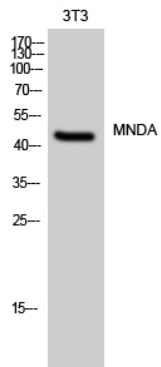
## 画像データ



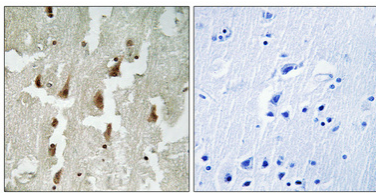
MNDA 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



MNDA 抗体を使用した 293 細胞溶解物のウェスタン ブロット分析。



1: 500 に希釈した MNDA ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。